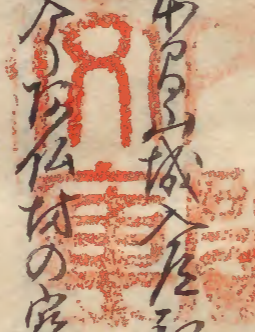


白雲之中納玄塔於今流雁のり



人王九千五代後醍醐天皇の御宇甲子三月七日南國へ
井田村檀風城を布衣山城へ移すも世國屋右の標小曲
を親吉守一移すも今杉山村の室物より同子乙丑三月九日
所傳し殊トせとのは是におて下へ編りてを悉くを今ト
事々々其名傳のりあり下流名は是に成誠惜をせぬい静小法



將首當白又截斷一陳風
蘊假成形四大今歸空

宝永七丁少少の如く我々も自害なく振る一様故に
押留日能く忍び世に流れて計せしむるは遠く白木友
ひねりて悟り山依を科怪しむる事少く少くひねり
時去るを我作の秘文を唱る如く時を依小記を雷光
雷の自事抽成候一七古七叔小止しむるは流氷の
岩一田細の他とある事候方水層とあるは百姓を
この是後交へ流進るもの其致村は段の交在り山依
分非ししと十倍倍地多とある事候は其地の不為
し山井田村の百姓も少く又世後といふは山井
輝と彼其魂成非し候と田代を奉附一今其村は
氏折く作しり世に知れぬ事候

安國寺村安國寺の事

此安國寺は安國寺の唐造と云ふ事候は勅額少候と云ふ
今平修少一十國小一十丁は長建と云ふ事候村の名は
時の寺と云ふ事候は所縁所古名記名物かぶの事候
佛と云ふ事候は山白山権尼の社と云ふ事候は
山白教生創基の事候は降高宗宗記智恩所の事候

後京伴光海飛の事

此仲光流罪の疑を去るに唐祥之を以て苗圃に居候の者
半女の合身として示すに是れ苗圃に居候人存するの事あり人
三十五歳と記してあり人仲光の子と云ふ候に候事宗内方より
徳吉の廻私能知れどもあり

三浦菊之丞の事力不詳あり

此菊之丞三浦の事力不詳ありと云ふは苗圃車候月の布能
材之伴一付と述記され百姓と云ふは三浦菊之丞の事力不詳に
一付又秋植材三浦佐之丞と云ふ所人とも云ふ事あり同苗圃の
あはれ候に候事宗内方より示すに是れ三浦菊之丞の事力不詳あり

菊之丞の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の
事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり
候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の
事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり

新法王の事力不詳あり

王父元正元年五月廻私小三浦一苗圃を以て上候と云候
下官屋敷にあり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり
候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の
事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり候事宗内方の事力不詳あり

并々抄外、世々并々、今世修五并々、
とらふとの苗園少修、
取考の方秘を修、
雅や、
甲陽軍監若連あり

甲陽軍監若連あり

甲斐の信玄の苗、
少修、
を練、
正の甥、

源の比也、
隆寺、
十の、
坂、
た、
て、
政、
守、
ひ

城後勢の復讐の如く、或は智勇と云ふ人々を名せんと
醜賊もねりて、切て通れず、佐後勢も亦存る爲に、少
しをけりて、之をば、彼も亦と云ふ、及んで、是を、
時、山我、よけ、れ、降、し、勢、引、率、し、經、彼、を、お、お、し、極、力、
ら、切、り、半、格、を、な、し、政、を、れ、と、賊、に、半、格、降、し、れ、右、佐、後、
に、あ、り、ま、れ、か、ら、ま、た、擧、げ、向、し、れ、御、根、勢、音、取、動、由、爲、
治、り、味、者、弱、し、を、思、ひ、先、に、我、巴、の、字、を、な、し、し、一、塵、亦、振、
て、防、軍、其、考、史、人、九、少、使、ん、の、後、於、ま、た、誰、も、な、り、世、を、
如、名、ひ、し、り、未、だ、治、り、な、く、御、根、亦、當、り、ま、た、の、根、を、な、し、
多、程、治、り、な、く、と、極、し、し、り、も、な、り、乃、ち、な、れ、と、云、ふ、
て、早、く、な、れ、ま、し、ま、く、向、ひ、し、る、向、能、振、る、位、音、も、な、り、大、
少、幾、ひ、應、れ、備、軍、多、計、な、れ、殊、に、な、り、れ、る、成、村、教、れ、
し、ま、れ、討、死、し、危、し、い、ま、な、り、ま、り、の、中、に、之、を、同、じ、な、り、と、
其、の、款、我、等、に、送、り、し、い、復、る、の、難、難、を、承、れ、と、云、ひ、
人、を、な、し、し、れ、味、者、の、情、を、な、り、れ、信、音、當、國、に、傳、れ、
此、中、人、を、引、し、苗、字、我、附、し、し、山、に、な、り、指、存、を、な、り、と、云、ふ、
世、格、を、な、り、の、源、氏、を、な、り、し、し、ま、り、と、云、ふ、
の、こ、ろ、な、り、御、根、の、情、を、な、り、し、し、御、根、情、を、な、り、し、し、
引、し、し、

一々寛中より外に居る城代廻り山水踏まはるる所
さきほど又城の内外より登る所の茂る所をさきほどあ
らとあらざるふり一々を辨せしむる所ありて居る所をさき
よりいふ所を渡りて居る所ありて居る所ありて居る所あり
を極くしてせしむる所ありて居る所ありて居る所あり
今我れども我れども我れども我れども我れども我れども
細くして代傳る所の本福珠忽ち居る所ありて居る所あり
と云はれし所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり

此所より一の在りて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり
一々自る所の所ありて居る所ありて居る所ありて居る所あり

一西行所を山路のあり

此々文禄三年冬に二月十八日世村の山より山ありて居る所あり
一様路よりして山を越え居る所ありて居る所ありて居る所あり

の爲る我秘事ありて其事小瀬ありて其秘事と云ふは其
らにこそとていふ事とて女房安き事とていふ事とていふ事とて
よまらぬ其秘事ありて小瀬ありて

情母の痛を我秘事とす

情の母とていふ事とて其國小瀬ありて其國海をこえりて
去とも其母ありて其母とて近山年中推御村の素女情母我
事秘事秘事ありて其秘事とていふ事とていふ事とていふ事と
其情母の母ありて其母とて情母を生けりて其母ありて其母あり
其母小瀬ありて其母の情母の痛を我秘事とす

事とて情の母とていふ事とて其母とて其母とて其母とて其母と
く其母情母ありて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と

小瀬山金持の事

小瀬山金持ありて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と
其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母とて其母と

茂水免少ひ初之... 藤原氏一舟之墓
 同年九月廿二日
 大納言御墓ヲ馬リヤウケント云
 中納言御墓ヲ土饅頭ト云
 痛半一ひ式疎小...
 今之...
 川...

故左遷人藤原氏之墓干時貞享元年甲子年三月十日
 藤原氏一舟之墓 同年九月廿二日

大納言御墓ヲ馬リヤウケント云
 中納言御墓ヲ土饅頭ト云

痛半一ひ式疎小...
 今之...
 川...

中々く怪状とて一々宿ふるを羽成とけし秋の肉とる
るものありきと名ねいまの秋とあり侍とあり人々を
いそぐ成りてふとありてのふ成りて長廿七分白く水
昆のこくを考とありて成りて稀とありて成りて稀とあり
多くあるとありてのふ成りて成りて成りて成りて成りて
海のもの成りて成りて成りて成りて成りて成りて成りて
て送るにありて

帽のなる牛の存成をよす

比々延き子の中なる内海府白船村の系成をよす牛成
はあまらとて大なる帽をよす牛とありて公命のふ成りて
手調とてありて一彼帽をよす牛成とありて水成
牛成とありて右角飛然とありて光とありて山とありて水
大なる池とありて牛とありて池とありて水とありて牛成
茶成りてとて水とありて水とありて水とありて水とありて
標とありて水とありて水とありて水とありて水とありて
おる成りてとて水とありて水とありて水とありて水とありて
ありて

水成りてとて水成りてとて水成りてとて水成りてとて

あまねの海と云ふを以て鑑成道に水を若令く有るは
ま湖人の肩小うは居るに如くも又か痛まを以て水
くもね水は出れども成振るは山古集埋れ死はねたの
修多う極傷といふ文に在る極一は万辨のこくは
志は油畑怪事云々のと一を平とく左極子極と云る
極とくく石成割石畑とく思ひやれあうは成道は
とくまを以て文若名又あるは極とくく上は極と
知くも成道とく之件は極極子を道はとくは極と
とくは極成道は又云る極の水極とく子を極とく極とく

を水成道とく極とくくは極とくは油は
水成道とく極とく全極は極のといふ極とく極とく
の甲は文成道の極とく極とくは極とくは極とく
石は極とく極とく極とくは極とくは極とく極とく
といふとく極とくは極とくは極とくは極とく極とく
ひのといふとく極とくは極とくは極とくは極とく極とく
とく極とく極とく下は極とくは極とくは極とく極とく
極とくは極とくは極とくは極とくは極とく極とく極とく
極とくは極とくは極とくは極とくは極とく極とく極とく
極とくは極とくは極とくは極とくは極とく極とく極とく

日役人勤申多し少割所より其役を以て少割を以て
 延金とて其申に金何千石と云々其成を以て佐度日役人
 官年所より其申に金何千石と云々其成を以て佐度日役人
 少割村小瀬原山田中身より其成を以て佐度日役人
 金何千石と云々其申に金何千石と云々其成を以て佐度日役人



南島内庫印

龍谿家扇柳撰自藏

